

令和5年度 評価結果

高田カトリック幼稚園

1. 園の教育目標

カトリックの「愛の教え」に基づいて、一人ひとりの人格を尊敬と愛情をもって受け入れるように努める。学校教育法・モンテッソーリ教育法を総合的に取り入れ、幼児それぞれの発達に応じた自主活動を行い、他の幼児や教師たちと楽しく関わりあいながら、ゆたかな人格形成ができる適切な手助けと環境を提供するよう努める。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- * 保育環境の充実と研修
- * 安全管理
- * 情報の共有、発信

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価項目	取り組み状況
<p>* 保育環境の充実と研修</p> <p>・モンテッソーリ教育の実践園として、子ども達が自由を使い、自分の人格を創りあげていく生活ができるように、5類移行後、ただ元に戻すのではなく子どもたちと共に新しい園の生活を創りあげていく。</p>	<p>子どもがはじめて接する「社会」である幼稚園で、他者と出会い仲間をつくり、友情を育み、思いやりや協調性といった社会で生きていくために必要な基礎を身につけていける環境、一人ひとりの個性が大切にされるような環境をめざし、ありのままの自分を受けとめてもらえる安定した居場所となるよう、取り組んできた。</p> <p>○ コロナ感染症が5類に変更されたことを受けて、中止していた活動を子ども達の様子を見ながら徐々に行っていくようにした。特に、給食の場面では1年をかけて自分で注ぎ運ぶなどをするようにした。</p> <p>○ 自由選択活動の時間は、子どもが自分の人格を創りあげていくために必要な時間と捉え、長年の課題でもあった縦割り活動の時間と横割り一斉活動の時間のバランスを考え、縦割り活動（自由選択活動）の時間を十分に取れるようにと、行事の練習や内容を少しずつではあるが、変えながら保育に取り組んできた。</p> <p>変更にあたっては、子どもの今の姿や欲していることをよく話し合い、保護者にも伝えながら取り組むようにした。</p> <p>○ 年度末には、自由選択活動の時間をたっぷり取り、子どもに無理のない横割り活動の時間を作り、子どもの発達段階と思いに</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・より質の高い保育のために、互いに学び合う。 	<p>寄り添った保育を次年度さらに進めていきたいとの方向性を保護者の方に伝え、理解と協力をお願いした。</p> <p>教師としての人間的な成長と専門性のさらなる向上を目指して、以下のように取り組んだ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ モンテッソーリ教師として子どもに必要な援助ができるように京都モンテッソーリ教師養成コースでの学びを深め、資格を取得。(新たに2名) ○ 特別な配慮の必要な人への支援の仕方等について、作業療法士の先生を招き、また療育の現場へ伺い学びを深めた。 ○ 各自に応じた課題を持ち、モンテッソーリ教育以外の研修にも積極的に参加して学んだ。 <p>△ 日々の多様な業務がある中で、全員が揃っての研修の時間をどのように取っていくかが課題である。</p>
<ul style="list-style-type: none"> *安全管理 ・健康管理 ・バスの安全な運行 ・避難訓練 	<ul style="list-style-type: none"> ○ コロナ感染症は5類へ移行となったが、他にも多くの感染症があるので、引き続き手洗い、うがいの励行、換気など基本的な予防方法については、子ども達への指導、保護者への啓発を心掛けた。 園内には、感染症に罹患すると持病が悪化する人もいますので、園内のお休みの状況などを保護者に知らせ、注意喚起を行っている。 ○ 夏には、外遊びやプール遊びを行う前に、熱中症対策温湿度計を用い、安全を確認するようにした。 ○ バス内への置き去り防止のための安全装置を設置すると共に、添乗員、運転手に安全な運行の為のマニュアルを用いて研修を行い、機械に頼るのではなく、ヒューマンエラーをなくすため日々の確認が重要であることを再確認した。 ○ 緊急地震速報受信機による、地震に対応する避難訓練、水害(浸水)に対応する避難訓練などを新たに行った。

	<p>△ 1学期から段階を踏んだ避難訓練を行ってきたが、2学期、行事が多くなると、天気なども関係し予定通りに時間をとることが難しかった。</p> <p>災害に備えての備蓄品の見直し等も必要である。</p>
<p>*情報の共有・発信</p>	<p>子ども達の園生活の中で、育っていく過程を大切にしていることや子ども達の姿を、様々な方法や機会を使って、保護者の方々に発信し、園の保育内容や思いを知っていただけるように努めた。</p> <p>○コロナ感染予防の為に中止していた、懇談会や保育参観などを行い、実際に幼稚園に足を運んでいただく中で子ども達の様子や園の生活を感じ取っていただける機会を増やしてきた。今後も更に保育参観などの園の生活を知っていただく機会を増やしていきたい。</p> <p>○子どもの姿や成長の様子を伝えるものとして保護者にお渡ししている個人の記録の内容を吟味し、日常の子どものスナップ写真などを入れて、コメントを書くなど工夫した。</p> <p>○今年度は、隣にある教会の主催行事などにもお声をかけていただき、オータムフェスタに家族で参加されたりして交流を持つことができた。</p>

4. 評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	
<p>良 好</p>	<p>教員間また保護者の方の信頼とご理解・協力の上で、子ども達の生活や行事をただ元に戻すのではなく、更に子どもにとって良いものとなるように見直しながら、子どもの日々の生活が中心になる取り組みを少しずつではあるが進めることできた。</p>

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取り組み方法
* 保育環境の充実と研修	<p>モンテッソーリ教育の実践園として、子ども達が真の自由を使って生活できる環境をつくっていくため、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 自由選択活動を中心とした日々の生活の充実と、行事などへの取り組み方を見直し、子ども達の日常生活があまり変わらないような内容、準備などへとシフトしていく。 ・ 引き続き、保育室内の環境だけでなく、外で遊ぶ子ども達の環境、内容についても、研究していく。 ・ 特別な配慮の必要な人への支援の仕方等について、更に皆で学びを深めていく。 ・ 対面の研修やオンラインの研修など、それぞれの良さを吟味しながら、研修の時間の取り方を工夫していく。
* 安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 引き続き、安全への意識を高め、非常時に職員が連携して対応できるよう研修を深めると共に、子ども達も年齢に応じた動きができるよう、方法を検討しながら継続して避難訓練を実施していく。 ・ 防災用品の再点検を行い、災害に備える。 ・ けがやアレルギーなどによる体調の急な変化の際、職員の役割、連携した動き方の再確認を行っていく。 ・ バスの添乗について、機会あるごとにマニュアルを見直し、周知を図る。
* 情報の共有、発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子ども達の中に育っているもの・幼稚園での取り組みを、きめ細やかに保護者に伝えるために、様々な機会を利用し、また色々な方法を使って発信していく。 ・ ICT化をすすめ、保護者への細やかな連絡等に役立てていく。

6. 関係者評価

- コロナがやっと5類に移行し、少しずつ中止されていた活動を再開されることは、子どもたちにとっても嬉しいことですが、先生方が一人ひとりの子どもたちに寄り添って、今、何が必要なかを日々考えながら取り組まれている様子がよくわかります。
- 保護者の方と連絡を密に取り合い、いろいろな行事や機会に子どもたちの様子を発信されておられる様子もわかりました。
日常の子どものスナップ写真などを入れてコメントを書かれることは、先生方には、大変な作業だと思いますが、保護者や子どもたちはどんなに嬉しいことでしょう。
- 展示会の時に幼稚園に伺いましたが、今回もそれぞれの年齢に合わせて工夫されたのびのびした作品の数々を拝見しました。
リズムオーブリスクールの子どもの作品を展示されたことも良かったと思います。なかなかそのような機会はありませんし、保護者の方も子どもたちと一緒に興味を持ってご覧になっていました。映像を入れられたのも正解だと思います。

→ コロナ禍で色々なつながりが断絶されたと感じて過ごしてきました。保護者の方が子どもたちの生活や遊びについてイメージしにくくなったこと、保護者同士のつながりも持ちにくくなったことなどがあげられます。様々な工夫をこらし、子どもたちの園生活を知らせ、お互いに信頼を紡ぎ出しながら、それを前に進めていきたいと思っています。
- 特別な配慮が必要な子どもたちへの支援を学ばれるために、療育の現場にも足を運ばれたことも素晴らしいです。
- 先生方のご苦労があちこちで実を結んでいると思います。
- 園児の成長過程は個々に違いますし、それは家庭環境や親や先生とのコミュニケーション、その他で変わってきます。そのような園児に対してのご指導はたいへんなことと思います。今後日本を背負っていく人間教育の基礎を受け持っているといっても過言ではないです。
- 変わりゆく社会の現況はとどまることがありません。身近なところでは、教会にベトナム人の若い人たちが来ています。結婚、出産があり、日本人の子どもと一緒に遊んで成長します。私たちは、ややもすると大人の基準を重要視して子どもの人格形成、心の教育を忘れる場合が出てきます。外国人のお子さんが入園なさることがあったら、その時こそ、カトリックの「愛の教え」に基づいて全力でかかわってほしいと願います。

○ 園児への安全と安心を職員方は、平常心で強い精神力で守ってほしいです。

いつくるか分からない地震、台風、豪雨などは、日本国土に生きる宿命です。地球への接し方は、園児のみならず職員全体で取り組む園の目標・計画へと結びつくものと思います。

→ 毎日の日常生活こそ一番大切にすべきものであり、子どもたちは、二度と戻らないかけがえのない時間を高田カトリック幼稚園で過ごしているということの責任の重さを職員一同しっかり心に留めて、これからも全身全霊で保育にあたってまいります。